

私のチャレンジ宣言
CO₂削減のために一人ひとりが出来ること

冬の暖房時の設定温度を22℃から20℃に2℃低くする。	-96g
通勤や買物の際にバスや鉄道、自転車を利用する。	-180g
車の発進時にふんわりアクセル「eスタート」をする。	-207g
主電源をこまめに切って待機電力を節約。	-65g
白熱電球を電球形蛍光灯に取り替える。	-45g

さらに具体的なアクションはチームマイナス6%ホームページへ！最新情報は本誌エスケープルートにも。
<http://www.team-6.jp/>

待ったなしの地球温暖化。 1人、1日、1kgのCO₂削減を呼びかける チーム・マイナス6%。



Japan As A Carbon Neutral Country

環境省地球環境局地球温暖化対策課 国民生活対策室長
染野憲治さん Kenji Someno

世

界的な科学者や専門家が集まるIPCC（気候変動に関する政府間パネル）は、今年2月、次のような研究成果を発表した。気温や海水温の上昇、氷雪の融解や海面上昇などから地球温暖化は明白であること。気温上昇の原因が、人間の活動による温室効果ガスの増加によってもたらされたもので、その可能性は90%以上であること。そして、21世紀中に地球の平均気温は1・1度から6・4度上昇するだろうと予測している。

「この報告に議論の余地はない、というのが世界的な認識となつています。私たちがどれだけ努力しても、今世紀中に平均気温の上昇が止まることはなく、少なくとも1度以上は上昇してしまうという結論なのです」と話す、環境省地球環境局の染野憲治さん。「かといって、温暖化対策を怠ることはできません。企業だけでなく、国民一人ひとりも、CO₂削減に向けた行動を続けることが必要なのです」。

世界全体がCO₂削減に取り組む



チーム・マイナス6%の取り組みを発表する、環境省地球環境局の染野憲治さん。「削減できるCO₂量を測り、自分の生活スタイルを見直してみてください」。

気づいたら、行動に移そう！ 他人事ではなく「自分事」として。

人、1日、1kg CO₂削減」という活動をはじめています。私のチャレンジ宣言*と題して、身近なところでできる温暖化防止のメニューを選んでほしい、毎日の生活のなかで1人1日1kgのCO₂排出量の削減を目指すという取り組みです。冷暖房の温度設定や水道の使い方、商品の選び方やごみの減らし方、節電や自動車の使い方など、基本的な6つのカテゴリからチェックし、自分のCO₂排出量を計算します。パソコンでも、携帯電話でもチャレンジできます。1日1kgのCO₂削減を実践することで、自分に何ができるか気づき、できることから取り組んでもらえればと考えています」

日本人が排出するCO₂は、平均すると1人1日約6kg。もし1人1日1kgの削減を国民全員が実現できたら、京都議定書をクリアするための家庭での削減目標である年間約3700万トンを超えて削減できる。「チーム・マイナス6%の活動を進めるなかで、『まだ環境に関心がない』『自分が何をすればいいかわからない』という方に出会います。そんな方にぜひチャレンジしてもらいたいですね。環境問題が自分の問題であることに気づいてほしいのです。他人事ではなく自分事だと。そしてそれに気づいたら、行動に移してほしい。『めげせ！1人、1日、1kg CO₂削減』にチャレンジしたこ

なか、日本は1990年の京都議定書で6%の削減を約束した。しかし、現段階で逆に8%増加しており、目標を達成するには14%も削減する必要があるのだ。そんな厳しい現状において、政府の計画では、国内の対策で8・7%、森林の吸収による3・8%、京都メカニズムを活用して1・6%を削減するという目標を定めた。しかし、この目標も難しいとされ、現在、目標達成に向けた計画の見直しを進めている。

さて、CO₂排出量を部門別で見たととき、1990年と比べた2005年の産業部門での排出量は、企業の努力によりほぼ現状を維持している。一方、オフィス部門は44・6%、家庭部門では36・7%と、いずれも大きく増加している。この数値をどのように下げ、全体として6%削減を実現するべきかが大きな課題だ。

チーム・マイナス6%では、とくに排出量の多いオフィスや家庭でのCO₂削減の取り組みに関して、自主的な行動を呼びかけている。夏の「COOL BIZ（クールビズ）」や冬の「WARM BIZ（ウォームビズ）」、家でできる温暖化対策を推進する「うちエコ！」、そして、省エネ家電など、CO₂削減に貢献する環境技術を使ったエコ製品を推奨する「ハロー！環境技術」など、さまざまな活動を行っているのだ。

「今年の6月からは『めげせ！1

とを誰かに話すだけでも、相手の行動に影響を与えます。これが、チームマイナス6%の活動の大きな目的なのです」

最後に染野さんは、在中国日本大使館の一等書記官として3年間、中国に滞在し、環境対策に取り組んだときに撮影した写真をスライドに映し、人々の暮らしを紹介した。「ご存じのとおり、中国の経済は凄まじい勢いで発展しています。このまま経済成長をつづけ、いつか13億人の国民が先進国と同様の暮らしをするようになったとき、どのぐらいのエネルギーや食べ物が必要になるのでしょうか？ 60億の人間が暮らすこの込み合った地球を賢く分け合わなければいけないと思えるのです。どれだけ努力しても1度の気温上昇は免れないとしても、その不安もけつして他人事ではなく、やはり自分事として考え、国民一人ひとりが温暖化防止に取り組んでいただければ嬉しく思います」と語りかけ、発表を終えた。

来年の7月7日には、北海道で洞爺湖サミットが開催される。ホスト国の国民として、世界の人々から「さすが日本」と感嘆されるように、自分なりのCO₂削減を日々の暮らしからはじめることが求められる。

